

2 次 案 内

2012 桜山合同教育研究集会

- 研究主題 「どの子にも確かな学力と自立・連帯の力を」
- 基本課題
- ◆ 平和と真実をつらぬく民主教育の確立
 - ◆ 子どもと地域に根ざす教育課程の創造
 - ◆ 地域に開かれた学校づくりの推進

「立ち止まって考え合おう!～子どものこと、学校のこと、地域のこと～」

と き 2012年 10月6日(土)・7日(日)
と ころ 江 差 町 立 江 差 小 学 校

講 演 **地域の復興なくして学校の再生なし**
徳 水 博 志 氏

(宮城県・石巻市小学校教員)

日 程

	9:15	10:00	11:30	12:30	13:20	17:00
6日	開会集会	教育講演	全体発表	昼食	領域・問題別分科会	
7日		教科等分科会	昼食	教科等分科会	閉会集会	
	9:30		12:00	13:00	14:30	15:00

主催 2012 桜山合同教育研究集会をすすめる会

実践が大切にされる分科会討議のために

領域・問題別分科会 10月6日（土）

1 学級づくりと生活の指導（小学校・中学校）

子どもの実情を交流しあい、現状をつかみましょう。学級づくりを通じて、子どもの成長 発達に寄り添う実践とは何か。現場の実践レポートを持ち寄り、子どもたちを励まし、ともに成長し幸せに過ごすための糸口を語りあいましょう。

2 職場づくりと父母・地域との関係づくり

職場の現状 教職員の人間関係や労働の実態を交流し、働きやすい職場づくりのために何ができるか語りあいましょう。また、父母や地域との関係についても実情を明らかにし、父母 地域との協力 共同をどのようにすすめたら良いかを考えあいましょう。

3 「いじめ」「不登校」「教育困難」

「いじめ」「不登校」や困難な状況を抱えた子どもの実態をリアルに交流しあいましょう。それぞれの語りの中から、困難を克服するための糸口を探り、子どもの発達を支えるような取り組みを考えあいましょう。

4. 複式学級の指導

桧山管内や熊石地区のほとんどは、複式学級になってきています。みんな語り合い、その悩みや知恵を出し合いながら、複式学級の困難さを少しでも克服するため、どうしたらよいか考えあいましょう。

※ 「新しい学習指導要領と子どもたち」をテーマにした学校現場の実態などを交流し合います。

教科等分科会

10月7日（日）

1	国語	日本語の力を身につけさせ、豊かな感性を育む授業の創造 ●読み・書きの基礎を培う実践 ●豊かな表現力を育てる実践 ●文学作品や説明文の読み方指導 ●言語に関する指導
2	外国語	どの子にもわかり、確かな力をつける外国語の授業 ●学習指導要領と英語の学力 ●小学校外国語活動の時間 ●ティーム・ティーチングを通してのコミュニケーション能力の育成 ●基礎的な力を育てる多様な実践
3	社会	確かな社会認識の土台をつくるための豊かな実践 ●歴史認識を育てる小・中・高の実践 ●地域を教材化した実践 ●社会認識を育てる地理・産業学習 ●平和教育実践
4	算数・数学	おくれを出さない、わかる、楽しい算数・数学の実践 ●どの子にも基礎的な力をつけさせる指導 ●各領域の関連と系統をおさえた指導の工夫 ●つまづきを乗り越えさせるわかる授業
5	理科	自然や物事を科学的にとらえ、はたらきかける実践の創造 ●各領域の系統を考えた実践 ●地域・自然の教材化と授業
6	生活科 総合学習	事実や経験を通して認識の力を育てる実践の創造 ●社会・自然・人間・労働と学習 ●学びと教えの総合
7	図工・美術	確かな目と手、心を育てる美術教育 ●確かな描写力と表現力を獲得させる実践 ●生活づくりと造型
8	音楽	子どもたちの心を揺り動かす音楽教育 ●どんな教材で、どうきりこんだのかの実践 ●楽器の指導 ●ひびき合いをつくりだす授業 ●基礎的な力を育てる実践
9	技術・家庭	生きる力を育てる技術・家庭科の実践 ●技術・家庭科の学力 ●生活・科学・技術を結合した実践 ●実習の指導
10	体育	子どもに運動や成長の喜びをつかませる実践 ●心と体を育てる体育の実践 ●どの子もできる体育の授業
11	子どもの 体づくり	今日の子どもの発達状況をとらえた体と生活づくりの実践 ●発達論にたつ実践 ●保健室からの実践 ●性と生の指導
12	障害児の 教育	すべての障害児の発達を保障する実践 ●障害児の発達保障 ●「特別支援教育」を考える
13	教育条件整備と 学校事務	事務職員の役割を学校づくりに生かす実践 ●子どもと教育を視野においた教育財政と日常に事務実践

講師

徳水博志氏

(宮城県石巻市・小学校教員)



略歴

1953年生まれ 石巻市立雄勝小学校教諭

宮城県教職員組合石巻支部前委員長 文芸教育研究協議会宮城サ

ークル代表 日本生活教育連盟全国委員 新しい絵の会全国委員

日本子どもの版画研究会全国委員 美術教育、国語教育、総合学習を

得意分野とする。趣味は美術鑑賞、版画制作

著書

「森・川・海と人をつなぐ環境教育」2004年 明治図書

震災と子どもの貧困白書 2012年 かもがわ出版 共著総合学習に

生かす造形教育 2001年 開隆堂 共著

講演「地域の復興なくして学校の再生なし」

3・11以後に教育行政が行ったことは、ハード面では学校の統廃合であり、ソフト面では学習指導要領の全面实施による学力向上策と道徳教育の推進だった。いずれも新自由主義的な教育政策であり、惨事便乗型のショックドクトリンである。勤務校でも6月に早々と学級削減、学区外通学者の転校指示が出された。被災者に寄り添わない教育行政への義憤から生まれた教育観が、『震災復興を中心とした学校経営の転換』である。①子ども観の転換、②学力観の転換、③学校経営観の転換である。この復興教育観にもとづいて2学期から全校で行った実践が、地域復興を学ぶ総合学習である。この実践から生まれた6年生の町づくりプランが、今年の8月に町の復興計画案に採用されたのである。ただし、地域復興は厳しい。地域の復興は震災前の過疎問題と震災による人口流出という二重の課題を背負っている。それを打開する方策は、地域資源を生かしたホタテ養殖業の6次産業化、伝統工芸の雄勝硯の再生、そして新規事業の創出である。教員退職後は自ら新規事業を起こす覚悟でいる。

全体発表 内糸俊男さん(江差町立江差北中学校 教諭)

模擬授業「原発・放射能問題」

3.11以降、技術家庭科の教師として、エネルギー問題、とりわけ、今回の原発事故・放射能の問題を授業で取り扱わなければならないのではないかと自問自答する。そんな中、先般、町民が主催した「子どもと放射能の学習会」で出前授業を行い、好評を博す。松山の先生達が「原発・放射能の授業をする際のたたき台になれば…」と、全体発表での発表を引き受け、参加型の模擬授業を行う。

